

古代学研究会 編

# 埴輪生産からみた地域社会の展開

埴輪生産遺跡はどのような背景のもとにそこで営まれたのか。古墳築造の一環として埴輪生産が行われたとき、それを支えた地域基盤はどのようなものであったのか。古墳築造と埴輪生産によって、各地域にはどのような変化が表れたのか。本書では、埴輪生産遺跡をキーワードに、古墳時代の地域社会の在り方、さらには地域と王権との関係を考古学的分析により明らかにすることを目的とする。畿内の埴輪生産のみならず須恵器生産、須恵器と埴輪が同時生産された尾張との比較を通じ、それぞれの特徴を描き出す。文献史学にみえる「土師氏」は埴輪生産とどのような関係にあり、埴輪生産から「部民制」や「上番」はどう読み解けるのか、その具体像に迫る。各地の埴輪生産遺跡を検討の中心に据え、古墳への供給関係、周辺集落との関係、埴輪生産から読み解く古墳時代の権力構造など、多角的な分析をもとに埴輪生産の歴史的背景を解明する。巻末には、全国の埴輪生産遺跡集成を収録。

古代学研究会 2019 年度拡大例会・シンポジウムを深化させた成果報告書。



〔体裁〕 B5 判 並装カバー 本文386頁

〔発行日〕 2023 年9月 20 日 〔発行〕 六一書房

**会員特別価格 4,800 円** (税込・送料別)

〔定価 5,500 円 (税込)〕

\*特別価格での販売数には限りがございます。  
お早めにご注文ください。

\*送料は1冊の場合 400 円です。  
複数冊の場合は冊数により変動します。

【購入のお申し込み・お問い合わせ先】

古代学研究会

E-mail : kodaigakukenkyukaireikai@yahoo.co.jp

序	森岡秀人
第Ⅰ部 拡大例会・シンポジウム記録集	
〈趣旨説明〉	
地域社会の展開と手工業生産	東影 悠
—埴輪生産遺跡と集落・古墳の対比から—	
〈報告〉	
古墳時代前期の埴輪生産関連遺跡と集落・古墳	金澤雄太
埴輪生産遺跡と集落からみる中期埴輪生産の実相	原田昌浩
生産遺跡からみた後期の埴輪生産の実態	花熊祐基
—古墳・集落との比較を通じて—	
須恵器生産と地域社会の展開	中久保辰夫
埴輪生産遺跡、集落と地域社会—尾張とその周辺地域—	早野浩二
文字資料からみた埴輪生産・造墓の労働力と土師氏	溝口優樹
〈シンポジウムの記録〉	
〈ミニシンポジウムの記録〉	
第Ⅱ部 考察	
古墳時代前期の埴輪生産関連遺跡と集落・古墳 (追補)	金澤雄太
埴輪生産遺跡と集落からみる中期埴輪生産の実相 (補遺)	原田昌浩
後期埴輪生産と地域社会	花熊祐基
古墳時代須恵器生産に関する研究の現状と課題	中久保辰夫
尾張とその周辺地域における埴輪生産と地域社会 (補論)	早野浩二
文字資料からみた埴輪生産・造墓をめぐる諸問題	溝口優樹
第Ⅲ部 誌上報告	
集落研究と古墳研究	森岡秀人
ヤマト王権と埴輪生産	坂 靖
埴輪の生産体制論	高橋克壽
埴輪生産の進展と王権	廣瀬 覚
埴輪生産と地域社会の動向	和田一之輔
九州北部の古墳と集落—八女古墳群の造営と「筑紫縦貫道」—	小嶋 篤
関東・東北の埴輪生産遺跡と供給圏	東影 悠
土師器生産と埴輪生産—前期後葉の画期の評価—	三好 玄
第Ⅳ部 総括	
埴輪生産からみた地域社会と王権	東影 悠
	・三好 玄
第Ⅴ部 埴輪生産関連遺跡集成	